

中国の記事から (WTO/FTA・貿易・安全 ・その他)

2006年7月20日号

目次

◎福建省の日本向け茶葉輸出が大幅に減少

【国際商報 2006年07月12日】

◎湖北金龍泉集団、10万トン級の燃料エタノール事業が審査パス

【中国化工報 2006年07月14日】

◎中国農産物輸出、日本のポジティブリスト制影響で大幅減

【国際商報 2006年07月18日】

◎上期の全国GDPは10.9%増の9.1兆元 (1)

【経済日報 2006年07月19日】

◎上期の全国GDPは10.9%増の9.1兆元 (2)

【経済日報 2006年07月19日】

◎中国-タイ-チェンセーン港の貿易が拡大続ける

【市場報(人民日報主編) 2006年07月20日】

◎福建省の日本向け茶葉輸出が大幅に減少

【国際商報 2006年07月12日】

全国的な茶葉の産地である福建省の福州市質量監督検閲検疫局は、上期の同市茶葉輸出回数は814回(0.3%増。前年同期比、以下同じ)、輸出量は3379トン(15%減)、輸出額は960万ドル(10%減)となったと発表した。このうち日本向け輸出は110回(15%減)、1027トン(25%減)、275万ドル(22%減)であったのに対して、EU向けは158回(46%増)、429トン(35%増)、159万ドル(40%増)といずれも増加しているのが対照的となった。

日本が5月末から残留農薬規制強化策・ポジティブリスト制が実施されていることが影響している。日本は福建産茶葉最大の輸出先であるが、日本の輸入業者、福建の輸出業者ともにポジティ

ブリスト制の下での貿易に慎重となっている。同制度が実施された5月29日～6月30日まで、同市茶葉の日本向け輸出は28回(17%減)、192トン(46%減)、52万ドル(同)となっている。

◎湖北金龍泉集団、10万トン級の燃料エタノール事業が審査パス

【中国化工報 2006年07月14日】

湖北金龍泉集団の燃料エタノール生産事業(10万トン)が、6日、専門家の審査をパスした。同事業は湖北省発展改革委員会が「湖北省燃料エタノール産業第11次5カ年計画(2006～2010年)」に指定している。金龍泉集団はビール生産を本業とする大手グループで、ビール生産能力は年間60万トン、固定資産規模は15億元に達する。燃料エタノール事業のため、同集団は湖北省農業科学院と共同で同省荊門市東宝区にて1000ムー(1ムーは6.6アール)の燃料生産用サツマイモ栽培拠点を建設した。

また、金龍泉集団は中国石化集団との間で燃料エタノール事業を合併で実施する契約も取り交わした。同事業によりエネルギー不足の緩和、農民所得増が促がされると期待されている。

◎中国農産物輸出、日本のポジティブリスト制影響で大幅減

【国際商報 2006年07月18日】

5月29日から日本の残留農薬規制強化策・ポジティブリスト制が実施されていることの影響を受け、6月の中国対日農産物輸出額は前年同月比18.0%減の1億3100万ドルに減少、世界向けの輸出も同1.2%減となった。これについて商務部対外貿易司は、13日、「ポジティブリスト制の中国農産物貿易に対する影響は表れ始めており、われわれはこれに強く注目している」とのコメントを発表した。

中国は公平な貿易にも関係するとしてこれまでもポジティブリスト制について日本と協議を重ねている。13日には両国の事務レベル会議が北京で開かれ、中国側は再度、この問題に強く注目していることを表明、日本に対して早急に事務クラスの協議体制を始動させるよう求めている。

◎上期の全国GDPは10.9%増の9.1兆元(1)

【経済日報 2006年07月19日】

国家統計局は、18日、上期の全国GDP(国内総生産)は9兆1443億元、成長率は10.9%となったと発表した。成長率は前年同期を0.9ポイント上回っている。内訳は第一次産業が8288億元、成長率5.1%、第二次産業が4兆6800億元、成長率13.2%、第三次産業が3兆6355億元、成長率9.4%となっている。

また、夏季の食糧収穫量も前年同期より74億kg、7.0%増の1138億kgを記録し好調、ブタ・牛・家禽・羊肉の生産量も同4.4%増の3605万トンに達した。上期、一定規模以上の工業企業(全ての国有工業企業、年間売り上げ500万元以上の非国有工業企業)の工業生産額は前年同期より17.7%増の3兆9680億元だった。1～5月の工業企業の利益は25.5%増の6294億元、増加率は前年同期を9.7ポイント上回り好調である。

◎上期の全国GDPは10.9%増の9.1兆元（2）

【経済日報 2006年07月19日】

消費需要は、安定的に拡大、商品価格もゆっくりと上昇している。上期の全国消費財小売額は前年同期比13.3%増の3兆6448億元、価格要素を除いた実質的増加率は12.4%を記録し、前年同期を0.4ポイント上回った。全国消費者物価指数(CPI)は1.3%増と前年同期を1.0ポイント下回っている。商品小売価格は前年同期より0.8ポイント増、工業製品出価格は2.75増、原材料・燃料・動力の購入価格は6.1%増を記録。全国70都市の住宅販売価格は前年同期比5.6%増であったが、増加率は前年同期より3.3ポイント下落している。このほか上期の全国貿易額は23.4%増の7957億ドルを記録、増加率は前年同期を0.2ポイント上回った。輸出額増加率は25.2%(前年同期を7.5ポイント下回る)、輸入額増加率は21.3%(同7.3ポイント上回る)を記録、614億ドルの貿易黒字となっている。

また、上期の外資による直接投資額は契約ベースで885億ドル(前年同期比2.7%増)、実行ベースで284億ドル(同0.5%減)、6月末現在の外貨準備高は年初より1222億ドル多い9411億ドルに達した。また、全国1人あたりの可処分所得は実質10.2%増の5997元、増加率は前年同期を0.7ポイント上回った。農民の現金所得は実質11.9%増の1797元、増加率は前年同期を0.6ポイント下回っている。

◎中国ータイ・チェンセーン港の貿易が拡大続ける

【市場報(人民日報主筆) 2006年07月20日】

タイ運輸省は、中国南部との貿易拡大を受けて、メコン川西岸のチェンセーン(Chiang Saen)港の2号埠頭を建設中であることを明らかにした。同埠頭は2007年中ごろにも供用開始となる見込み。

チェンセーン税関の統計によると、チェンセーン港での中国との貿易額は2002年が29億8300万バーツ(約7457万ドル)、2003年が39億400万バーツ(約9760万ドル)、2004年が45億6700万バーツ(約1億1400万ドル)、2005年が50億7900万バーツ(約1億2700万ドル)と年々拡大を続けている。タイが中国から輸入するのはリンゴ、ナシ、野菜、ニンニクなどが中心、中国向けに輸出するのはリュウガン、ゴム、シュロ油が中心となっている。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により 翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て 独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。
--